

令和 6 年 第12回

当別町教育委員会臨時会議事録

当別町教育委員会

令和6年 第12回 当別町教育委員会臨時会 議事録

日時 令和6年11月13日（水） 午後2時00分

場所 当別町役場第二庁舎2階会議室

出席者 三澤教育長、武岡教育長職務代理者、小林委員、佐々木委員

出席職員 山田教育部長、高田学校教育課長、川村学校教育課参事、村上社会教育課長

傍聴者 なし

【開会宣言】 教育長	大畑教育委員におかれましては、本日、お仕事の都合で欠席というご連絡を頂戴しております。 ただ今、定足数に達しておりますので、これより令和6年第12回当別町教育委員会臨時会を開催いたします。
【傍聴確認】 教育長	傍聴の方はいらっしゃいますか。 （「いません」の声） 傍聴がおりませんので、早速議事に入らせていただきます。
【議事日程】 教育長	日程につきましては、各委員に配付しております日程表に基づき議事に入ります。
【日程第1】 教育長	日程第1、協議第1号、当別町一体型義務教育学校基本構想の独自基準について、事務局より説明願います。
教育部長	協議第1号、当別町一体型義務教育学校基本構想の独自基準について、1頁になります。 こちらにつきましては、令和6年6月に開催した第7回、8月に開催した第9回及び10月に開催した第11回の定例会におきまして、継続審議となっておりまして、引き続き議論をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 なお、これまでの協議内容等につきまして、学校教育課長より説明いたします。
学校教育課長	ご説明申し上げます。議案は、1頁になります。説明につきましては、別冊資料でさせていただきます。1頁目をご覧ください。 はじめに、基本構想に係る独自基準について、でございますが、当時、当別町義務教育学校のとうべつ学園を設立するにあたって、平成30年に当別町一体型義務教育学校基本構想を策定しましたが、その際、独自基準を想定した理由として2つございます。1つ目は、9年の連続した教育課程により基礎学力や発展的学力の定着を図る学校を目指していたこと。また、もう一つは、教育基本計画の目指す学校像でもあります少人数・習熟度別による丁寧な指導を実践する学校で、学力の定着を図る考えと当別町は人口減少対策のため、移住政

策を打ち出して様々な取組を行って、今後の児童・生徒数の行方が不透明であることから、新しい学校については、各学年2クラスの18学級編制を整えたいという考えがありました。

次に、少人数学級と少人数指導の違いでございます。少人数学級につきましては、北海道の基準から外れて、基準より少ない人数で学級編制を行って、少人数によるきめ細かな指導体制を整える学級編制で、1クラスの児童数を少人数化して担任が授業を進める方法でございます。それに対して、少人数指導につきましては、北海道の基準で学級編制を行うものの、少人数によるきめ細やかな指導体制を維持するために、クラスに複数の指導者を配置して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導を行う方法になります。

次に表でございますが、少人数学級と少人数指導を比較したもので、左側の少人数学級につきましては、基本構想での独自基準でございまして、学級編制を行う場合、1クラスあたりの児童数を29人としたもので、対して、右の少人数指導は、北海道基準に基づき進める当別町の現在の指導体制と同様で、1クラスの定数がマックス35人になっているものでございます。

いずれも、メリット、デメリットがございます。少人数学級のメリットにつきましては、29人を境に30人になりましたら2クラスに分けることとなりますので、先生の負担軽減になったり、児童への丁寧な指導が可能になったり、児童一人ひとりの活躍の場が増えることや教室にゆとりのスペースが生まれます。

対して、少人数指導の体制をとっている当別町の場合は、児童数が多くなりますが、担任の他に補助教員を配置しておりますので、先生の負担軽減や児童への丁寧な指導に関しては、少人数学級とは変わりません。その他、学校の状況によって職員配置を変更することが可能で、授業に合わせた体制を工夫できる優位性がございます。

デメリットでございますが、少人数学級では、独自基準でクラス分けした場合については、道の基準を超えて教員を配置しますので、その人材確保と人件費については町の負担となります。また、少人数になることで社会性を育む上で問題が出ないか懸念があったり、児童数によって毎年、担任が必要か、否かが変化するため、雇用が不安定になりますので、人材を確保することも難しくなって参ります。それに対して、少人数指導につきましては、人材確保という意味では、正職員ではなく担任をサポートする補助教員のため、人件費が抑えられ、児童数に左右されるような雇用ではございません。

ただ、1クラス34人の場合でも1クラスになりますので、教室が狭くなることがデメリットになろうかと思えます。

教員数に関しては、少人数学級は、担任が行い、少人数指導の場合は、担任の他に必要に応じて補助教員を配置することが可能になります。

例を掲載しておりますが、1学年34名のケースがあった場合については、少人数学級の場合は、2クラスに分かれて、17人と17人のクラスになります。

道の基準を超えた学級体制になりますので、1名分の人件費は道負担で、もう1人は町の負担になりまして、人材確保に加えて1人当たり約1,000万円程度の人件費が必要になります。逆に、少人数指導の場合については、道基準を超えないため、1クラス、マックス34名になって、人材と人件費は、道で確保することとなります。補助教員に関しましては、人材確保と人件費は町が負担することとなりますが、教員免許を有する人材などを配置しております。また人件費につきましては、1人あたり約300万円程度になります。ここにも書いてありますが、4名入れても1,200万円というような状況になります。

双方、指導体制は異なるものの、学力の定着を図るべく、少人数によるきめ細やかな指導を行うということを目指しているところについては、同じでございます。

次に、2頁目をご覧ください。当別町における児童・生徒数の推移と指導体制について、でございます。当別町は、小中一貫教育の推進と小学校と中学校での教科指導と学力の向上を図るために、平成28年度から推進講師を配置しております。また、平成30年度には、子ども達に対して、個別な声掛けや学習支援を行うべく支援員を拡大配置して、個々の基礎学力の定着を図って、学習環境の充実を図っております。

グラフでも分かるとおり、年々、児童生徒数が減少しておりますが、補助教員を配置、増員しているため、教員1人当たりの児童数については、右肩上がりになっているところでございます。このグラフからも、当別町は子どもたちへの指導体制について充実を図っていることが読み取れるかと思えます。

次に、3頁目をご覧ください。4番目の石狩管内の状況と5番目の北海道内の状況でございますが、7月と8月の定例会で同じ内容を説明させていただいておりますので、簡単に説明させていただきますが、まず、石狩管内については、独自基準を設けて、北海道の基準を超えて学級編制を行っている自治体はございません。ただ、補助教員の名称は異なるものの丁寧な指導を行うために、サポーターや支援員を配置している自治体がほとんどでございます。

次に、北海道内の状況でございます。令和2年の情報になりますが、道内10市町村、23校が北海道基準を超えた少人数学級の体制で学級編制を行っているようでございます。道内の学校数全体と比較しますと約2.2%の実施率となっているところでございます。

また、北海道教育委員会では、個別最適な学びと協働的な学びの実現のために学級編制の標準を段階的に引き下げる取り組みをしており、令和3年度から令和7年度までの5年間で1年生から6年生まで全てを35人に段階的に引き下げる取り組みをしております。来年で完了というような状況になります。

次に、他の管内の状況でございますが、全国に先駆け平成15年に国の構造改革特区の認定を受けて少人数学級に取り組んだ十勝管内清水町の状況を視察してきましたが、研修をして感じたところは、きっかけや手法が異なるものの、個に応じたきめ細やかな指導を目的とした取り組みに関しては、清水町も当

別町も変わらないというところでした。清水町の目的でございますが、社会性、集団生活の習慣を身に着けることに重点をおいておりまして、手法は、クラスを分けて、子どもの人数を少人数化する中で指導しているところでございます。その利点としては、ゆとりと落ち着きのある授業が可能である反面、課題は、一人ひとりの発言が増えるものの、子どもが固定化して、多様な交流がとれない、人材の独自確保が難しいというところでございます。特に当別町と大きく異なっていたところは、子どもたちの落ち着きでございました。幼保小の接続に関しては、こども園が町立ということもございますが、段差を解消すべく保育士と教員の意識改革に注力されており、その取り組みが子どもたちの落ち着きに表れていたと言えます。

次に当別町ですが、目的につきましては、子どもたちの学力向上と学びの保障に重点をおいておりまして、手法は、クラス分けを行わずに指導者を増やして授業のサポートを行う指導方法となります。利点としては、クラスの人員が多いことで、対話を重視した授業をすることができ、主体的・対話的で深い学びの授業改革を進める上で重要な点かと思っております。また、教員を支える様々なスタッフを配置しておりまして、独自予算による会計年度任用職員は、合計 24 名になり資料にもあるとおり、学校への人的支援は管内でも充実しているほうだと考えているところでございます。この他、北海道教育委員会から、加配教諭を配置していただいております、様々な角度からきめ細やかな指導を実践するために多くのスタッフで教員を支えているところでございます。

また、就学時前の子どもたちの関わりについてですが、当別町では、幼保小の接続が重要であるという認識の下、接続プログラムを策定して、こども園との教員との意思統一を行うべく、教育内容や手法の理解を深めるための研修や交流を行っております。

ただ、当別町の課題としては、教室の狭さがございます。西当別地区の学校は、教室が元々狭い上に複数の指導者が入って授業を行っておりますので、教室を回ることが大変であったり、現在の教科書や端末に合わせた新 JIS 規格の机、椅子の導入ができない状況でございます。教室の広さにつきましては、とうべつ学園と西当別地区の学校の教育環境の差をなくすべく対応が必要であると認識しております。空き教室の活用や改修を含めた議論も必要であると考えているところでございます。

また、子どもたちの多様性に対応するためには、教職員のサポートの部分に関して、力を緩めることなく行っていかなければならないと考えているところでございます。

次に、幼保小との接続に関しましては、指導要領が異なるこども園と小学校また前期課程で、どうスムーズな接続ができるかがポイントになりますので、今後とも合意形成を図るべく幼保小接続プログラムの確実な実施が鍵となると考えております。

資料説明につきましては以上でございます。

教育長	ただ今、事務局より説明がありました。この件について、意見の交流をして参りたいと思いますが、いかがでしょうか。
小林委員	皆様、お気づきだと思いますけど、1 頁目の 2（1）が北海道となっております。
学校教育課長	北海道の誤りです。すみません。
小林委員	それと、1 頁目の表を見していますが、主なデメリットのところ、少人数学級のデメリットというは 3 項目出ていますが、少人数指導は 1 項目しかない。ないのかもしれないが、対比するのであれば、同じくらいのボリュームがあったほうがいいと思う。あと、3 頁目の清水町の目的とか手法とかのところだったのですが、清水町でもらった資料では、生活集団と学習集団の一体化ということが書いてあって、社会性、集団生活の習慣を身に着けることに重点ということとは、少し違うと思っていて、どうしてかと言うと、課題のところ、多様な交流とはならない、でも、集団生活とか社会性を目的としているのであれば、多様な交流がないと社会性が生まれないのかなと思ったりして、この資料をいただいた中で、こちらのほうでは、集団生活と学習集団の一体化ということをやっているから、そういうことではないのかなと。そのほうが馴染むのかなと思ったりしていたのですが、どうかと思った。社会性、集団生活の習慣を身に着けることとなると、課題の多様な交流とはならないということがちょっと馴染まないのかなと思いました。
教育長	私がお答えしていいかどうかあれですけども、まず、デメリットのところの数が合わないというところなのですけども、デメリットをこちらでも色々と拾い出してみているのですが、意外に見つからない。それで、少人数指導でのデメリット…。
武岡教育長職務代理者	そこのところを少し考えたのですが、少人数指導でも人を配置しなければならないから、固定的な人件費ではないけれども、ある程度の人件費はかかることが一つと、あと、人材確保が難しい。人を集めたいが、免許を持っている人、免許を持っていない人も含めて、なかなかいない。本当に人がいないということが、デメリットというか、課題ではないのかなと私は思うので、少人数学級と対比して、同様のことになるかもしれないけれども、そこはデメリットというか、解決していかなければならない課題になるのかなと思います。
教育長	確かに、そこの部分は、同じくあることなので入れてもいいと思います。多分、こちらのほうのおさえとしては、少人数学級の先生を集めるよりは、少人数指導の先生を集めるほうが、やや困難性が低い。要するに、資格の問題であったり。それから、同じく人件費に関しても、会計年度任用職員の先生を 1 年間お願いするよりは、少人数指導をしてくださる先生方を多数入れるほうが、金銭的にも安いというところがあったもので、それで、このような書き方になったのかなと思う。
教育部長	メリットの部分も、少人数学級と少人数指導で同じようなことが出てきているので、デメリットの部分で言っても、少人数学級については、独自基準でク

	ラス分けしたときの人材確保で、少人数指導の場合は、補助教員の人材確保と人件費については町が負担する。それぞれ金額と言うのは、下の事例で書いてある金額になるのだといったようなところで、付け加えてはどうでしょうか。
教育長	いいですね。
小林委員	そのほうがいいと思います。あとのほうで、色々と説明が出てくるから、あまりにも誘導しているように見えてしまうというか…。
教育長	では、今、ご意見ありましたので、そのように付け加える形でよろしいですか。
小林委員	はい。
武岡教育長職務 代理者	2 頁目の最初のところ、強化指導の強化というのは、教科ですね。教える科目ということですね。
教育長	そうですね。
武岡教育長職務 代理者	あと、感想をいいですか。3 頁目、前の時にお話がありましたけれども、当別町は、本当に、人がいない中でもたくさん集めて配置してくださっている。保護者にとっても、子どもにとってもすごくありがたいなと思います。私は、今、違うところに行っているのですけれども、学級数がすごく多く 14 学級くらいのところで、補助員が 3 名くらいしかいない。それも、やっと集まっている状況です。しかも、資格があるのは 2 人くらいで、あとは、資格のない保護者を入れたりとかをしている。そのようなことを考えると、当別町は本当にすごいなと思います。これは、誇れることだなと私は思います。あと、4 頁目の感想ですけれども、利点、クラスの人数が多いことで対話を重視した授業の充実が可能とありますが、可能にするためには、教師の指導力が前提になる。これは、書かさないことだと思いますけど、教師主導の一方的な授業をやっているぶんには、全く対話的な授業にならないので、授業感を変えてもらわないと、こういう授業にはならないということだと思う。だから、そのところは注意して、これからも見ていきたいなと思います。
教育長	この前の管内の課題研の発表会で、とうべつ学園が公開した授業が、まさしくその形の授業で、担任が一人で授業を行うとなると、やはり、一斉指導しかしようがないのですけれども、複数先生や指導員なりが教室に入っているということによって、班分けになったり、一対一の対話になったり、そういう対応ができているというのは、現実的に見えたところかなと私としては思いましたし、そのような評価も局や参加をされた先生方からいただいたところです。
武岡教育長職務 代理者	先生のほうで、子どもが何を考えているか、どのような意見を持っているかということが瞬時にわかるようなパソコンのシステムになっていますから、そういう面での授業改善というのは、若い先生方を中心に進めていく必要がありますよね。そうならないと対話的ということにはならない。とても上手くまとめてくださっていると思います。これは、議会かどこかに出すような形ですか。
学校教育課長	教育委員さん方で議論したものを、最終的にまとめたものを用意させていた

	だきながら、それをもって、27日の定例会で、最終的なペーパーに作り上げ、その日の後段に行います総合教育会議で町長に報告し、町長の意見をもらいつつ、12月の議会の常任委員会で、こういうふうな考え方をまとめましたというような報告をもって終わりになろうかと思います。
教育長	先ほど、小林委員からご質問のあった清水町の少人数学級の目的のところですが、清水町は、20年以上やっていますので、当初の目的から今現在の少人数学級の目的が変わりつつある。最初のスタートの時には、あくまでも小さな学校がたくさん町の中にあって、それを統合する時に保護者から、いきなり人数の多い学校に移動したら子ども達が馴染めないのではないかと。今まで、一対一とか、少ない人数で先生と接してきた子ども達が、いきなり何十人もの一斉指導になった時に、ついていけないのではないのかとか、そういうところがあった。そういうものを解決するという時に、方法論として、子ども達を向かい入れる学校も含めて、なるべく小さい単位のクラスを作りましょうと。そういうことで、少人数学級、特に清水町の場合は、1年生、2年生については、20人程度という言葉を使っています。20人程度と言っていて、20人きっかりで分けているわけではなく、21人の時もあれば、19人の時もあれば、18人の時もあるという状態で、その時のお子さんたちの状態だとか、そういうのを含めて、ある程度フレキシブルに分けるというやり方をしています。 それから、今回視察に行った時に配られた資料については、その当初の目的から20年やっているうちに、色々な段階を踏んでいって、今の少人数学級での目的はそういうところにありますよという表現なのだと思います。ですから、その書き方なのですけれども、これをどのように合わせていくか。今のことで書いていくのか、当初の目的同士を比べていくのかというのも考えた方がいいのではないのかなと、ご指摘をいただいて思いました。
小林委員	本来なら今のほうを選考した方がいいとは思いますが。単純に視察に行った意味がなくなってしまう。
教育長	それから、多様な交流とならないという言葉は、ちょっと言葉足らずなのかもしれないのですが、私達が頭の中で解釈をしてしまっている部分があって、わかりにくいのだと思うのですが、これも、今の教育、先ほど武岡代理からご指摘いただいたように、一斉指導ではなくて、子ども達が協働的に学んでいくという形になった時に、ある程度の人数がいる集団が幾つかないと、それを交流した時に、多様な意見の交流にならないというところの書き方だったのですが、そのへんをもう少し具体的に書く必要があるのかなというところだと思います。書くとしたら、ですけれども。
教育部長	そうですね。対話を重視した取り組みは難しいとか、行いづらいとか…。
武岡教育長職務 代理者	社会性が独り歩きしてしまうから、社会性という言葉を使わない方がいいかもわからない。
小林委員	集団生活、学習集団と書いてあるから、単純にこれで、一体化を目的としているわけだから、そっちに重点を置いているから、このままにしたら馴染むか

	など。社会性と言うのは、やはり、少人数学級に社会性と言うものが馴染まないかなと思っている。
教育部長	課題のところ、対話を重視した授業は、人数が少ないとできないとか。
教育長	他に何かご意見はございませんでしょうか。もっと、このような資料が入っていたほうがいいのか。 見た時に3頁と4頁に石狩管内の市町村の推進講師とか、サポーターとか、学習支援員の数と、当別ではさらに推進講師だったり、支援員だったりを入れていますよという、この2つがこのように分かれた状態であるのって…。
小林委員	むしろ、3番と4番があるじゃないですか。これが前に来たほうがいいのかなという気がします。少人数でずっと比較してきているわけだから。この他管のやつは、後ろのほうに補足的な形で載せるほうが、見やすいと言えば見やすいと思う。
教育長	名称が上手く伝わりますでしょうかね。当別町で入れているプラスアルファの部分の先生方の数であったり、立場であったり。
武岡教育長職務 代理者	3頁目の上のほうの学力向上推進講師等の欄なんですけど、全部、免許のある方ばかり書いてありますよね。多分、他の町も免許がない有償ボランティアというのか、時給1,000円くらいで学びのサポーター的な人と言うのは、入れていると思うのですよね。当別も免許を持ってない人はいませんか。いますよね。当別は、推進講師の他に入っている方というのは、免許を持ってない方もいるのではないかなと思うのですけど。
教育長	持っています。
武岡教育長職務 代理者	皆さん持っているのですか。学校入られる方全員持っているのですか。
教育長	ボランティア的なもので入ると言うのは、あくまでも地域協働本部だけです。
武岡教育長職務 代理者	水泳とか、スキーとかですね。
教育長	ここに出ている方は、皆さん資格を持っている。だから、よその町とすごく違うところはそこかなと思う。
武岡教育長職務 代理者	よその学校も学力向上サポーターは1人と言いますが、江別市なんかはその他に、札幌で言う学びのサポーターというのは、主婦でも誰でもいい、授業中に配慮の必要なお子さんに付いて、授業は教えないけど、サポートをするような役目をしているのですね。そういう方というのは、他の町にはいるのではないかなと思うのですが、参事、どうですか。
学校教育課参事	他の市町村は、おります。
武岡教育長職務 代理者	有償ボランティアですよね。交通費も出ないで、1,000円で働きますという方ですよね。調べるのは大変ですけど、当別はすごいと思うのですけど、そこまで書く必要はないのかな。
学校教育課長	すみません。調べきれなかったもので、満足いく資料ではないかもしれません。

	代理が言われるとおり、そういうものも調査する中で、全てにおいて比較したほうが、うちはフルスペックでここに載せていますから、他のところはどのような体制をとっているかを載せないと比較にはならないのかなと思う。
小林委員	元々も主題は、これを比較する話ではなく、少人数学級と少人数指導についての比較だから、これだけあれば僕は十分に、代理の疑問点は僕も知りたいけど、敢えてここに反映させるかということよりも、内々で教えてくれればいいと思う。そうなってしまうと、資料が膨大になってしまう。あくまでも、少人数学級、少人数指導にある程度の絞った資料のほうが、僕はいいと思う。
武岡教育長職務 代理者	少人数指導の場合には、免許を持っていない人の役割は、すごく大きいと思う。学生を入れている学校もある。学生に単位を出して入れている学校もあったりする。だから、少人数指導といった場合に、有資格者はもちろん大事なだけども、その裏に、そういう方に支えられて少人数指導をしているというのが、実態だと思う。現場に実際に入っていて。もし、調べられるのだったら、あったほうがいいかなと。なくてもいいですが、これでも十分伝わるのだけれども、時間がもしあれば…。ちなみに、江別は、各校1名といったら、もっとうちは入っているぞということがあるのかなという気が少ししたものですから。
教育部長	そうですね。これを載せると逆に知りたくなるころは出てくるのかなというのは確かにある。今回の目的というか、決めないといけないことというのは、小林委員の仰るとおり、少人数学級なのか、少人数指導なのか、今現在、我々は、少人数指導をやっていますけども、元々、少人数学級を入れるというところを再度どちらにするかというのを決めていくという中で言うと、何と比較するのだというのは、他の市町村との比較ではなくて、少人数学級をやっているところと、今、我々がやっている少人数指導をやっている中で、どのような違いがあって、どのような利点があって、では、これから我々はどちらをとって進んでいったらいいのだろうということになろうかと思います。逆に言うと、そういった時に、周りの市町村はどうなのだろうというのは、当然、これは興味が出てきたり、今後のうちの指導員の配置にも当然影響が出て来るので、この部分と言うのは、この議論に関わらず、我々が知っておいても損はない情報だと思いますので、ここの部分、ボランティアも含めて、皆さんに後ほど情報提供できるように、お時間をちょっといただいて、できる限りフルスペックで捉えられるようにしたいと思います。
武岡教育長職務 代理者	あと、4頁のところに、少人数指導を支えるスタッフ24名ですよね。この人方も全て教員免許を持っている方なのか。
学校教育課長	人数は24名で、この中で無資格になる人は…。
教育部長	カウンセラーは、カウンセラーの資格だよね。教員資格ではないけど、それ専用の資格を持っている。
学校教育課長	支援員は有資格者をずっととっていたが、穴が空くというところで、有資格者ではない人を入れざるを得ないというタイミングがあったということはあ

	りますが、介助員だってヘルパーの免許を持っていたり、基本、有資格者をとってます。
武岡教育長職務 代理者	学力推進講師は4名であるが、他のところは学習支援員だったり、この書き方というのは、学習に特化した形なのでしょうか。
学校教育課長	学力を高めるためにというところのピックアップです。
教育部長	今の議論で行くと、4番の管内の状況がここに馴染むかどうかは確かに出てきそうな気がしますけど。
小林委員	後ろのほうがいいと思う。
教育部長	最後の方に着けますか。
小林委員	下の清水町と当別町の比較がここにあることが馴染まない。
教育部長	4と6が入れ替わりですかね。
小林委員	むしろ、2からずらしてもいいと思う。
教育部長	1、2、6、3、5、4ということですかね。
小林委員	グラフがあとのほうがいい。
教育部長	他管内の状況というところも、少人数学級導入事例なのか、導入している団体の状況なのか…。
小林委員	何にしても後ろのほうでいいと思う。
教育部長	石狩管内の状況は最後ですね。
小林委員	そのほうが見やすくないですか。結論を出してから、グラフ、他管内があったほうが。最後まで答えが出てこないの、先に答えを出したほうがいい。
武岡教育長職務 代理者	基本的には、今言われたような形にして、あと、調べていただければ、資格を持っていない人が各市町村に入っているのかを教えていただければと思います。
教育部長	これについては、別で、資料として調べ終わった時に皆さんにお知らせする形がいいかなという気がしました。
教育長	加配は、道からもらっているプラスアルファじゃないですか。それをもって当別は多い。
小林委員	それも入れ込んだら結構なボリュームになりますよね。
教育長	休憩します。 再開します。
武岡教育長職務 代理者	3頁の表にもあるのですが、当別町の場合には、学力向上推進講師と言うことで、各校1名の有免許者を配置してござっております。そして、当初の各学年2クラスの18学級編成という考え方は、当時はあったのですけれども、やはり、少人数の子ども達を多くの人達で見えいったほうが、より子ども達にとっては、色々なことを考えると効果があるのではないのかということで、私は、少人数指導をこのまま続けていっていただきたいというふうに思います。教育委員会事務局の皆さんのご努力に感謝申し上げます。
教育長	他にございませんでしょうか。

	(「ありません」の声あり) それでは、本件につきましては、継続審議として次回の定例会で最終決定したいと思います。よろしいでしょうか。 (「異議なし」の声あり) それでは、そのようにいたします。
教育部長	ただ今、委員さんからいただいたご意見は、事務局のほうで最終的な決定としてまとめさせていただきます。まとめたものを改めて次回の定例会の中で皆様にお示ししまして、最終的に委員会の決定といったものを作っていきたいと思ひます。 よろしくお願いいたします。
教育長	休憩します。 再開します。
教育長	以上で、令和6年第12回当別町教育委員会臨時会を閉会いたします。

閉会 午後3時2分

上記会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

当別町教育委員会 教 育 長

教育長職務代理者